



NPO 法人流山市国際交流協会 NAGAREYAMA INTERNATIONAL FRIENDSHIP ASSOCIATION NIFANEWS

発行: NPO 法人 流山市国際交流協会
〒270-0111 流山市江戸川台東 1-4 3F
国際理解サポートセンター内
☎ : 04-7128-6007 (月・水・金)
Email:nifa-support@bz04.plala.or.jp
http:nifa-home.sakura.ne.jp/



たが ちが きょうつうてん し
互いの違いや共通点を知ることは、
共によりよく暮らすことにつながります
なぐれやましようかう ことくさいこうりゅうかい
～ 流山小学校「国際交流会」～



秦剛一教頭先生と講師のみなさん

あき すこ あせ ひ ねんせい
秋たけなわ、でも少し汗ばむこの日、流山小学校の3年生は「国際交流会」
がいくしゅっしん かた ちよくせつじぶん くに ちいき しょうかい じかん ながねんつづ
です。外国出身の方から直接自分の国・地域を紹介してもらう時間。長年続い

ている恒例の授業に NIFA は毎回講師を紹介し、この交流会をお手伝いしています。

どうこう さくねんど ねんかん もんかしょう じんけんきょういくけんきゅうすいしんじぎょう と く
同校は昨年度から2年間、文科省の「人権教育研究推進事業」に取り組む小学校として、
けん つう していこう あつか う かん こうもくちゅう こうれい
県を通じ指定校の扱いを受けています。この事業では人権に関する14の項目中、高齢
しゃ しょうがいしゃ せいてき らち どうわ えら がくねんべつ まな けいかく
者、障害者、性的マイノリティー、拉致、同和などのテーマを選び、学年別に学ぶ計画に
なっています。3年生は、外国人がテーマです。交流会は2時限を使って行われ、児童
は6つの国・地域の中から希望する2つを選んで参加します。

「おはよう」のタガログ語や、右手を上げて相手の額につけるフィリピンの正月のあい
しゅうかん しょうかい ちゅうごく ひと ま あ
さつの習慣の紹介。アフリカ、中国、インド、アイルランド、イギリスの人たちが混じり合っ
てなす ばなし こうこう おな ぼしょ
てジャマイカ人になっているという話。小学校から高校まで同じ場所にあつて、クラスも
か たんにん しょうちゅうがっこう かく ひとり ちゅうしゅう まんげつ め
変わらず、担任は小中学校で各1人というラトビアの学校の紹介。中秋に満月を愛でる
だんえん かぞく いっしょ たいわん いま りょうかいしゃ しごと す
のは、「團圓」といって家族がみんな一緒という台湾の話。今の旅行会社での仕事が好
きなものは、日本語、英語、スペイン語が話せて、異文化の紹介ができるから、というペ
ルー出身講師のキャリアの紹介。アメリカはもともと移民の国、人気のスポーツはアメリ
カンフットボール、野球、バスケットボールの順、という紹介。どの教室もたくさんのQ
&Aがありました。

児童は、講師を迎えるにあたり、前もって自分で知りたい国・地域について下調べを
していた様子。みんなたくさんメモを取っていたようで、中には裏面にまで書き込んだ、
せんせい せいと
と先生に話した生徒もいたとのことです。

今では、市内でも多くの外国出身の方を見受けます。小中学校にも机も並べて一緒に
まな ぶ
学ぶ児童、生徒が増えています。互いの違いや共通点を知ることは、共によりよく暮ら
うえ たいせつ みちか かん そうごりかい
す上で大切なこと。外国を身近に感じ、相互理解が大切なことを、この交流会で学び感
じてもらえれば、と願っています。

講師を務めてくださった上村カルロスさん(ペルー)、上村エレナさん(ラトビア)、
りみんしゅん あまぬま
李明勲さん(台湾)、サーシャ・リー・シールズさん(ジャマイカ)、雨沼ロナさん(フィリ
ピン)、ポーラ・グリーンさん(アメリカ)の皆さん。ありがとうございました。(10月22日)



サーシャ・リー・シールズさん(ジャマイカ)



上村カルロスさん(ペルー)



上村エレナさん(ラトビア)



李明勲さん(台湾)



雨沼ロナさん(フィリピン)



ポーラ・グリーンさん(アメリカ)

My Memorable Home

おしえて あなたの心のふるさと

ころ 心はオーロラになごみ、白夜に躍る

じろう マッティン次郎ハンソンさん スウェーデン出身 (日本語講座事業部)



マッティン次郎
ハンソンさん

こんにちは。私の名前はマッティン次郎ハンソンです。私は日本とスウェーデンのハーフです。(母が日本人です) 生まれはストックホルム、その近郊のウプサラという町で育ちました。スウェーデンはヨーロッパの北にあります。



白夜

スウェーデンは、夏はいつまでも明るく、特に北の方は太陽が沈みません(白夜)。春から夏になるときに“ミッドサマー”という祭りがあります。夏はスウェーデン人が大好きな季節です。暖かくなり、休暇を取ったりして楽しい季節です。きっと日本で言う五穀豊穡を祝うのと同じ気持ちです。“ミッドサマー”ではシンボルの周りに集まってカエルのジャンプのようにグルグル回ったり、“Små grodorna”(「小さいカエル」の意)を

歌います。

一方、冬は長くて暗いです。11月から3月までは雪が降ります。スウェーデンでは冬にオーロラがよく見えます。オーロラは太陽と地球の磁場の関係で起こります。緑色が多いですが、赤や白が混じる場合もあります。その景色はとても美しく、リラックスします。空気は冷たくて、息をしても痛いぐらいです。気温は平均でマ



オーロラ

イナス 20度になります。時にはマイナス 40 度にもなります。冬には、人々は心理的に暗い気持ちになり、ビタミン D 剤を飲む人も多いです。

私はハーフなのに、子どものときは、日本語は全く話せませんでした。そのために言葉の壁ができ、日本の祖父や祖母に近づけない気持ちに



地下鉄の構内

なりました。現在、ワーキングホリデーで 1 年日本に住んでいます。日本での自分のルーツや文化、日本語、日本の生活などを体験したいからです。日本語の勉強のために、NIFA の日本語講座に申し込みました。講座では先生たちも優しく、勉強になります。おかげで、今では少し日本語でコミュニケーションができるようになりました。私の目標は、もっと日本語がうまくなることです。頑張ります。

(以上の日本語は、担当講師の井上洋子さんの指導によるものです)



ミッドサマーのシンボル

My Memorable Home

The heart is soothed by the Northern Lights and dances in the white night. Mr. Martin Jiro Hansson, Swedish

Hello. My name is Martin Jiro Hansson. I am half Japanese and half Swedish. (My mother is Japanese). I was born in Stockholm and grew up in a town called Uppsala near Stockholm. Sweden is located in northern Europe.



ストックホルム

In Sweden, the summer is always bright, especially in the north, where the sun never sets (midnight sun). When spring turns to summer, there is a festival called 'Midsummer'.

Summer is a favorite season for Swedes because of warmth and holidays. It is probably the same feeling as celebrating a good harvest in Japan (Gokokuhoujou). In 'Midsummer' they gather around a midsummer symbol, jumping around it like frogs and singing 'Små grodorna' (meaning 'little frogs')

Winters, on the other hand, are long and dark, with snow from November to March. In Sweden, the northern lights are often visible in winter. Northern lights are caused by the relationship between the sun and the earth's magnetic field. They are mostly green, but can also be red or white. The scenery is very beautiful and relaxing. The air is so cold that it hurts to breathe because the temperature goes down to minus 20 degrees Celsius. Sometimes it can reach down to minus 40. In winter, people feel psychologically gloomy and many take vitamin D pills.

Even though I am half Japanese, as a child I could not speak any Japanese. This created a language barrier and made me feel inaccessible to my Japanese grandparents. I am currently living in Japan for a year on a working holiday visa. I am here because I want to experience my roots, culture, Japanese language and life in Japan. I signed up for a Japanese language course at NIFA to study Japanese. The teachers are kind and I learn a lot. Thanks to them, I can now communicate a little in Japanese. My goal is to improve my Japanese. I will do my best. (Mostly translated with the software, DeepL)



神保宗安(じんぼむねやす)さん
ワールドハーモニー

- ◇出身: 群馬県
- ◇に例えると
: 群馬県出身なので馬に似ているかも (ただし駄馬?)



語学にがあり、スペイン語講座へ。その後、「外国語のコーラスを原語で歌う」に共鳴し、現在に至ります。ロシア語、インドネシア語等は意味がわからず、ただカタカナ読みですが、雰囲気だけでも納得。これからも頑張ります。

酒井溪子(さかいけいこ)さん
がいにこくごうざしきようが
外国語講座事業部

- ◇出身: 福島県
- ◇動物に例えると
: 自分の干支
: 猪 (猪突猛進)



流山にんで、半世紀になります。陸の孤島と言われたわが地区も、近くに柏の葉公園ができ、グリーンバスで便利になり、終の棲家と自慢できるようになりました。4年の海外生活を経て、日本は本当に住みよい国だな、と実感しています。

落合あい子(おちあいあいこ)さん
ワールドハーモニー

- ◇出身
: 茨城県
- ◇好きな
: 空港



世界中のな容姿を持つ人々がそれぞれの思いで集まってくる場所には、エネルギーと未来を感じます。

いつまでもにいたいのので、ワールドハーモニーの仲間に入れていただきました。感謝!

ひと
NIFAの人 荒巻 スニシャさん
 (Ms. Aramaki Sunicha **タイ王国出身**)
 にほんごこうざじぎょうぶ えどがわだいきよしつ
日本語講座事業部・江戸川台教室
 く くに
日本にもかつてあった暮らしぶりの国から

Q. NIFA に入会されたのはいつ頃、どんな動機ですか？
A. 2年半前にタイから流山にきました。日本は初めてです。なので日本語が話せるよう、日本の人と知り合いになれるよう、昨年8月に入会しました。



Q. タイは、どちらのご出身ですか？
A. マハサラカム県 (Mahasarakham) という東北部 (イサーン) の地方です。
Q. どのような所か、紹介してください。
A. 農業を中心とした田園の生活です。主な作物は米とキャッサバ、雨季と乾季が交互に来るので、この季節に合わせた農業サイクルの生活を送っています。またイサーンの人たちは、自分たちの文化や習慣を大切にしています。それらの中には隣国ラオスの文化的影響を受けた、独自の音楽や舞踊、祭りがあります。宗教は、この地域でも仏教が重要で、日常生活には寺院が深く関わっています。僧侶への托鉢や仏教の教えに基づいた道徳的な生活を営んでいます。総じて村のコミュニティの結束がとても強く、助け合いや収穫期などの共同作業が大切です。結婚式や葬式など、村全体が協力して行う伝統的な儀式も多く見られます。首都のバンコクからは列車で7時間くらいかかります。

Q. イサーンの人が大切にしているものは何ですか？
A. まず家族です。多世代家族が一緒に暮らし、若い世代が年配者を敬い、支援する伝統が根付いています。また農業に依存する生活の中で、自然との共存が大切にされています。雨をつかさどる精霊に感謝をささげる儀式や、自然資源を大切に使う精神が強いです。イサーン地域の音楽、料理、言語 (イサーン語) は、日常生活に欠かせないもので、大切に守られています。タイも多言語国家、公用語のタイ語の他、幾つか主要な言語があります。そして仏教的な価値観が人々の行動規範となっていて、精

神的な豊かさを重んじる生活スタイルが根付いています。
Q. 故郷で思い出に残ることはありますか？
A. ソンクラーン祭り (タイの新年) です。毎年4月13日から15日にあり、日本の正月と同じ大切さです。この時には家族全員が集まり、他の県で働いている親戚もこの時期には帰省します。私の育ったイサーン地方では特に大切で、「ロッド・ナム・ダム・ファ」という儀式が行われ、子供たちは年長者に水をかけて敬意と感謝を表し、これからの健康を祈願します。これは親孝行を表す大切な方法です。私たちはまた、高齢者への感謝と敬意を示すために、功德の一環として食べ物を寄付します。また新年の宴会は、大音量の音楽と歌や踊りで盛り上がり、子供たちは親戚からお小遣いをもらうことを楽しみにしています。若者たちは水をかけ合ったり、互いに顔や体にタルク粉 (日本で言うオシロイ) を無理やり相手に塗ったりして楽しみます。また水鉄砲やバケツで大量の水をかけ合い、時には粉を混ぜて色を加えることもあります。この習慣はタイのソンクラーン祭りの楽しみの一つです。このお祝いは、ただタイの新年を迎えるだけでなく、家族や友人が再会し、温かく楽しい雰囲気を作り出すためのものでもあるのです。タイの国民が一番楽しみにしている時期で、私もこの祭りが大好きで忘れられません。

Q. タイの食べ物にはどのようなものがありますか？
A. 地域によりそれぞれ異なる食文化がありますが、私の故郷の東北部 (イサーン) では非常に辛い料理が多く、もち米とともに魚や肉を発酵させた食品 (プラーラーやソムタム) がよく食べられます。中でも「ソムタム (青パパイヤサラダ)」や「ラープ (スパイシーな肉のサラダ)」が代表的な食べ物です。

Q. 日本ではタイとどのような違いを感じますか？
A. 日本はごみの分別が進んでいるのにびっくりしました。街がとてもきれいです。タイではどのようなごみも一緒にごみ箱に入れてあります。
A. 日本のお茶の味にも驚きました。お茶はよく飲みますが、タイではアールグレイのような匂いの強い茶葉で、お湯と一緒に鍋で1~2分間濃いめに煮出し、それに牛乳と多めの砂糖を加えミルクティーを作ります。でき上がったものに氷を入れてアイスティーとして飲みます。すごく甘いです。日本の緑茶は渋く感じ、最初は閉口しましたが、今は慣れて飲んでます。

◆ 興味深いお話をありがとうございました。(10月12日途中で夫君の荒巻幸寛様にも加わっていただきました。 西山勝)



タイティー

すべての子供たちの幸せを歌詞に載せて

～「ワールドハーモニー」流山市合唱祭に参加～



今年も流山の合唱好きが、文化会館でハーモニーを楽しみました。最初に「百万本のバラ」(原題:『Dāvāja Māriņa(マールが与えた人生)』)をラトビア語で演奏。歌詞は、今の世に訴えかけるものです。もう1曲は、「聖者の行進」(When The Saints Go Marchin' In)を英語で。「繰り返しの歌詞には深みを(百万本のバラ)。乗りとパフォーマンスグッド(聖者の行進)」という講評をいただきました。(11月16日)

※ラトビア語の歌詞の大意

神様、なぜあなたは全ての子供たちに幸せを運んでくることをお忘れになったのですか？

身も心も軽くラテンのリズム 「ラテンダンス体験会」

～文化講座事業部 8月18日 エルズにて～



ズンバ*
先生の動きを真似する



サルサ*
ペアダンス



陽気なラテンダンスバーにいる気分、4名の参加者とモクテル(ノンアルコールカクテル)で乾杯

9/22 ペルー料理へ行ってきました。



音楽も芸能も同じ起源を感じます

～日韓交流 親善ミニコンサート 2024 in 流山 ～

宵闇に包まれたおおたかの森センターのホールが、日韓のサウンドが行き交い、混じり合う空間になりました。

韓国から古来の音楽、文化を伝承し、普及する活動を行っている方々の来日を機に、「流山おおたかの森お囃子会」の皆様との共演の機会を得て、コンサートが実現しました。

鉦(ケンガリ、チン)や太鼓(チャング、ブク)、笛(テグム)など、日韓で多少の形や音色に違いはありますが、それらの響きや、歌のメロディーを聴いていると、そこから醸し出される情緒は、互いに共通するものを覚えます。笛とピアノの共演も、和洋の一体感を感じます。

サムヌリ(注)の鉦や太鼓の豪快かつエネルギー溢る乱打に気持ちは高揚し、笛で奏されるメロディーや京畿(キョンギ)民謡の歌唱に哀愁を感じるのは、

‘近くて近い’つながりでしょうか。お囃子会の獅子舞、ひょっとこ踊りも日韓の近さを引き立たせました。

会員の金淑花さんが代表を務める「日韓交流 rainbow」が主催、NIFA が後援。6年ぶりの開催です。(10月13日)

(注) サムヌリ:韓国の伝統楽器であるケンガリ、チンやチャング、ブクを用いた現代音楽の一つ、演奏グループ、演奏そのものこと。



日本語も英語も体の中で一緒になって

～ すみれ幼稚園の未就園児向け英語教育を支援 ～

江戸川台駅からサポートセンター前の通りを15分程度歩くと、そこは柏市のみどり台。住宅街の中、広い敷地に馬蹄形の園舎。園庭には大樹、みんなを見守ります。朝、先生たちの元気な「おはよう！」の声が園児たちを迎えます。

ここすみれ幼稚園では、9月から2歳の未就園児に入園前のプログラムを実施しています。子供たちは月1回の英語教室を楽しみにしています。1時間のプログラム、その中で20分英語で(を)遊ぶ時間があり、会員のアディティ・サイニさん(江戸川台教室)がインストラクターを担当しています。

この日は、「Sit down, Stand up」のアディティさんの掛け声に合わせて繰り返し体を動かしたり、「Hello how are you?」の歌を歌ったり、「sleepy」「happy」「rainy」



「blue」等の単語とイラスト付きのカードを何枚か見せ、意味をイメージしたりするプログラム。アップテンポのBGMが流れ、カードに触れるよう、アディティさんは子供に近づいたり、離れたったり、鬼ごっこ風です。おしまい、曲に合わせてみんなで「Head, shoulders, knees and toes」等の部位に触れながらの踊り。切れ目のない、あつという間の英語だけの時間です。

この後子供たちは紙工作や砂遊びの時間、アディティさんも子供たちの中に入り、英語で会話をします。プログラムは毎月内容が変わります。10月からは、満3歳の園児にも別のプログラムで英語教育が行われています。

元気いっぱいの歓声の中、ネイティブの方との自然な触れ合いがどのように花開くのか楽しみです。(10月24日)



まつりでみんなとつながり、クイズや遊びで世界とつながる

～ 流山「市民まつり」に出展(10月27日) ～

生涯学習センター裏手から、キッコーマンアリーナに至る総合運動公園全体が大勢の人で賑わっています。

NIFAは会場の入り口すぐのテントに出展しました。5年ぶりです。この日のプログラムの1つはマッチングシート、「ありがとう」の原語と国旗を結び、国名を当てるクイズです。普段馴染みのない国旗、言葉もあります。テントの中は親子、友達同士などで一杯。100枚用意したシートは予定より早くなくなりました。もう1つのプログラムは外国の遊び体験。インドの「Snake & Ladder」というボードゲームを、出身のアディティ・サイニさんが英語で説明してくれました。日本のすごろくに似た遊び、サイコロを振り、自分の駒を盤上で進めます。駒が盤上の蛇のところで止まると後戻り、階段で止まるとそこを昇って先に進みます。インドでは普段

の遊びだそうです。40分程の間に、順番待ちもできるほどでした。また台湾の李明勳さんが、踢毽子(ティ チェンツ)という遊びを教えてくださいました。日本の羽根つきの羽を数倍大きくしたサイズの毽子を足けりする遊びです。テントの裏の空きスペースが競技場に変身、李さんにコツを教えてもらいながら挑戦です。多くの人は1、2回くらいですが、中に6回という子もいたようです。この日の新記録です。昼過ぎの開始から閉店まで、蹴り続ける子供たちの歓声が絶えませんでした。

NIFAの出展はユニークでした。当日はホームステイイベント事業部の皆さんを中心に、各事業部の方にも運営に参加していただきました。



編集後記

「市民まつり」でNIFAのテントも千客万来。遊びも万国共通、楽しいものは誰もが楽しい。笑顔を広げました。準備スタッフの笑顔も広がりました。